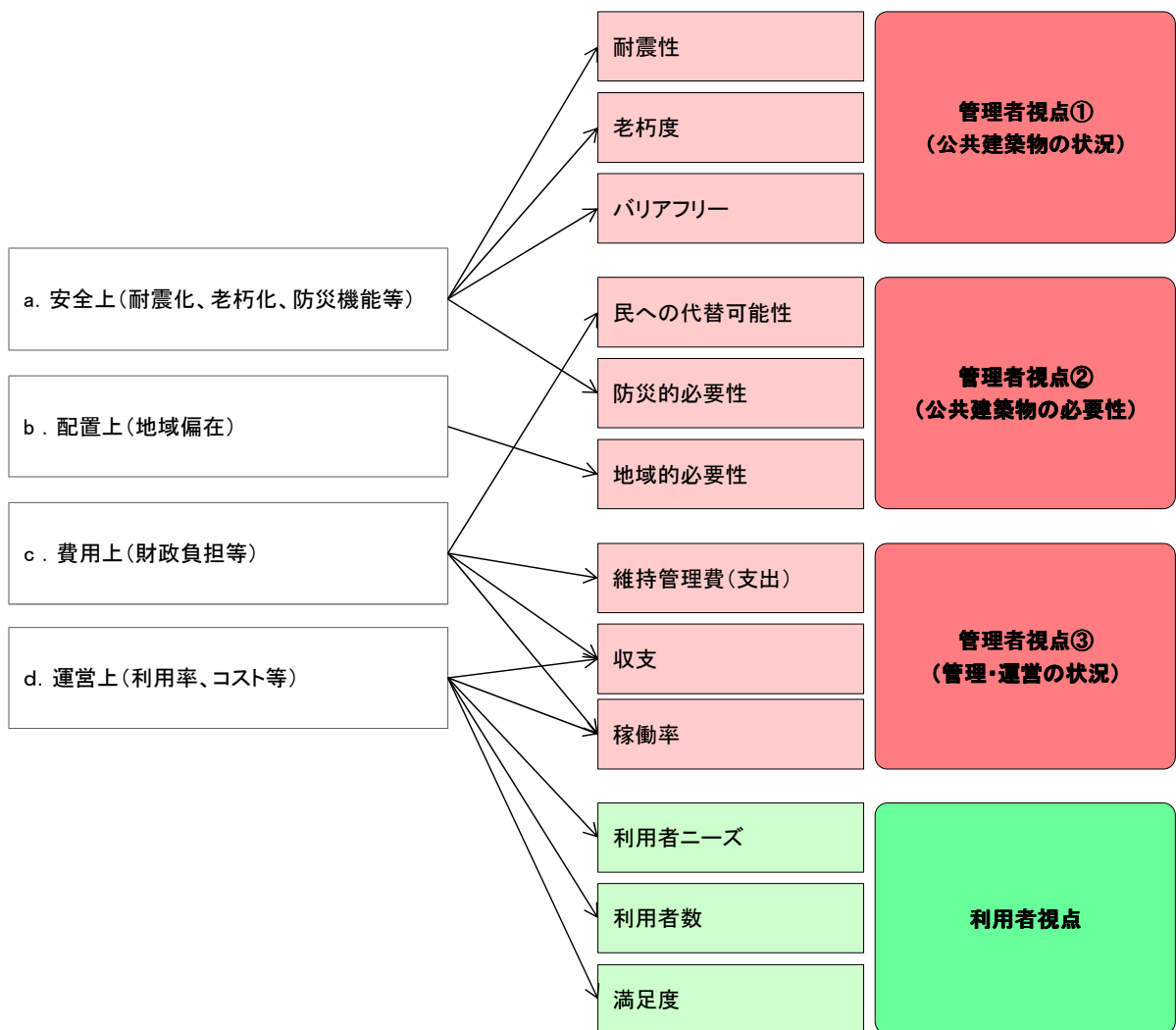


○施設の評価方法について

①評価指標の設定

公共設等総合管理計画では、公共施設としての「施設本来の必要性」に加え、
a. 『安全上（耐震化、老朽化、防災機能等）』、b. 『配置上（地域偏在）』、c. 『費用上（財政負担等）』、d. 『運営上（利用率、コスト等）』の4つの視点から評価を行うため、以下に示すように、管理者視点として「①公共建築物の状況」、「②公共建築物の必要性」、「③管理・運営の状況」に関する9種類の指標に加え、利用者視点の3種類の指標を設定しました。

4つの視点と評価指標の関係性



②評価点の設定

設定した各指標は、下記に示す方法により3段階方式で評価を行いました。

管理者視点①:公共建築物の状況

評価	3	2	1	備考
A. 耐震性	新耐震基準	—	未実施	
	不要			
	実施済			
B. 老朽度	耐用年数の 1/2 以下	耐用年数の 1/2 越え	耐用年数越え	
C. バリアフリー	対応 (5~4 項目実施)	一部対応 (1~3 項目実施)	未対応	①車いす用エレベーター、②身障者トイレ、③道路から入口までの車いす用スロープ、④手すり、⑤点字ブロックの5項目の実施状況。

管理者視点②:公共建築物の必要性

評価	3	2	1	備考
A. 民への代替可能性	可能性低・無	可能性中	可能性高	中分類ごとに設定※。
B. 防災的必要性	指定あり	—	指定なし	広域避難地、拠点避難所、防災活動拠点、行政系施設は“3”。
C. 地域的必要性	地区に同種施設の立地なし	地区に同種施設が2棟立地	地区に同種施設が3棟以上立地	中分類ごとに設定。 全て小学校区単位で評価。 行政系施設は“—”。

管理者視点③:管理・運営の状況

評価	3	2	1	備考
A. 維持管理費(支出)	低い	普通	高い	中分類ごとの平均値の1.1倍以上で高い、0.9倍以下で低い延床面積あたりの値で検討。 支出が0円の場合は“—”。
B. 収支	黒字	赤字15%未満	赤字15%以上	収入がない場合は“1”。 指定管理者制度を活用している施設は“3”。 収入も支出も0円の場合は“—”。
	指定管理者制度を使用	収入なし		
C. 稼働率	50%以上	30%以上 50%未満	30%未満	稼働率の考え方が当てはまらない施設(市庁舎等)は“2”。 評価できる施設は21施設のみ。

利用者視点(アンケート対象 49 施設のみ)

評価	3	2	1	備考
A. 利用者ニーズ	0.92 点以上	0.24 点以上 0.92 点以下	0 点以上 0.24 点以下	アンケート問1の結果より点数化。 平均点(0.58)・標準偏差(0.34)より振分け。
B. 利用者数	平均の 120%以上	平均の 80%以上 120%未満	平均の 80%未満	延床面積あたりの値で検討。平均は中分類ごとに算出。 データ不明の場合は“2”。
C. 満足度	1.89 点以上	1.29 点以上 1.89 点以下	0 点以上 1.29 点以下	アンケート問2の結果より点数化。 平均点(1.59)・標準偏差(0.30)より振分け。

※「民への代替性」の評価点設定一覧

中分類	評価点
文化施設	3
図書館	3
博物館等	3
スポーツ施設	2
産業系施設	1
幼児・児童施設	2
消防施設	3
公園	3
その他	個別に設定